
開講科目名：現代会計論研究（4単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：荒鹿 善之

《授業の概要》

【授業の概要】

1980年代後半から会計基準の国際的調和化が盛んに議論されるようになり、近年では世界各国において国際会計基準の国内導入（アドプション）が行われています。日本でも企業会計基準委員会（ASBJ）が設置され、会計基準の国際化対応に追われてきました。現在では、既に100社を超える企業が国際基準を任意で適用するようになりました。

本講義ではこのような動向を踏まえ、まず、会社法、金融商品取引法、そして税法という3つの法律を柱とする日本の会計制度の概要を振り返ります。そして、国際会計基準の成り立ちと背景を考察するとともに、それに対して日本の会計制度がどのように対応してきたのかについても検討します。具体的には、文献の輪読を中心に授業を進める予定です。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス
- 2 日本における企業会計制度の概要
- 3 企業会計を規制する3つの法律（会社法）
- 4 企業会計を規制する3つの法律（金融商品取引法）
- 5 企業会計を規制する3つの法律（法人税法）
- 6 公正妥当と認められる会計原則について
- 7 会計基準の規制対象となる企業について
- 8 国際会計における諸問題
- 9 会計基準の国際的調和化の必要性
- 10 国際会計基準委員会（IASB）設立の目的と背景
- 11 会計基準の国際的調和化と公認会計士の役割
- 12 証券監督者国際機構（IOSCO）の役割
- 13 国際会計基準（IAS）と概念フレームワーク
- 14 EUにおける会計基準の国際的調和化
- 15 会計基準の国際的統一化
- 16 国際会計基準審議会（IASB）の設立
- 17 国際財務報告基準（IFRS）の設定
- 18 2005年以降のEUの動向
- 19 日本における会計基準の2009年問題
- 20 国際会計基準と日本の会計基準
- 21 長期請負工事の収益認識について
- 22 棚卸資産の評価について
- 23 のれんの会計処理について
- 24 外貨換算の会計処理（外貨建取引）
- 25 外貨換算の会計処理（為替換算と為替差損益）
- 26 外国通貨と外貨建金銭債権・債務の換算
- 27 国際会計基準のアドプション
- 28 日本における修正国際会計基準の設定
- 29 日本企業による国際会計基準適用の現状
- 30 国際会計基準の今後の課題と展望

【評価方法】

授業における課題の発表内容、および期末に提出するレポートの内容から総合的に評価します。

《テキスト》

第1回目の授業ガイダンスにおいて指示します。

《参考書》

Kawasaki, T. and Sakamoto, T. “General Accounting Standard for Small and Medium Sized Entities in Japan” Wiley, 2014.

Nobes, C. and Parker, R. “Comparative International Accounting, 13th ed.” Pearson, 2016.

菊谷正人『国際会計の展開と展望-多国籍企業会計とIFRS-』創成社、2016年。

向伊知郎『ベーシック国際会計』中央経済社、2016年。

新日本有限責任監査法人『完全比較国際会計基準と日本基準（第3版）』清文社、2016年。